

## 総務文教委員会行政視察報告書

平成27年5月8日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 委員長 藤井 義明<sup>印</sup> 副委員長 竹原 泉<sup>印</sup>  
議員 天野 喜一郎<sup>印</sup> 議員 大本 益之<sup>印</sup>  
議員 金藤 昭明<sup>印</sup> 議員 原田 てつよ<sup>印</sup>  
議員 樋之津 倫子<sup>印</sup> 議員 山本 俊明<sup>印</sup>

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

### 記

#### 【1】長野県小諸市議会

住 所	長野県小諸市相生町三丁目3番3号
電 話	0267-22-1700
視察案件	コンパクトシティについて
期 日	平成27年4月21日(火) 15時00分から17時00分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	小諸市役所 3階 委員会室
概 要	長野県東部の小諸市は、人口43000人余り、浅間山山麓の高原都市であり歴史的には城下町として、また北国街道、甲州街道、中山道の交差する交通の要所として発展、島崎藤村を始め多くの歴史的遺産を有する都市である。

	<p>近年長野新幹線の開通により信越本線が第三セクターに転換されて、東京直通の恩恵がなくなり大きな打撃を受ける事になった。</p> <p>このような状況を背景に現在、地方都市の抱える課題が浮き彫りとなりこれを解消すべく、コンパクトシティ構想を軸とした都市のリノベーション計画に着手している。</p> <p>人口減少と高齢化、商業施設の郊外移転による中心市街地の空洞化、総合病院の医師不足と施設の老朽化など地域医療の崩壊、更には築後半世紀を経過し老朽化の著しい市役所など、笠岡市との類似点も多く、都市再生に向けた取り組みの参考とするのが視察目的であった。</p> <p>注目のコンパクトシティ計画では市役所と小諸厚生病院の交換移転を提案、賛否渦巻く市民説明会などを経て、H24年10月、市役所敷地での市庁舎、小諸厚生総合病院の併設再構築計画の実施を表明し、「教育・文化の発祥の地」にふさわしい、図書館とコミュニティスペースを中心とした複合的な施設も併せて整備することとなった。</p> <p>視察議員からの都市機能集約によるメリットもさることながら、中心地から離れた地域の収縮衰退のリスクについての質問に対しては、公共交通をタイムリーに充実させることで対応を考えているとの答えであった。</p> <p>また市民の市外への勤務人口については把握されていない、との事でこの事業による市内活性化に伴う生産性の向上への可能性は未知数であるように感じた。投入される事業費の大きさから、その効果も含めてこの自治体の大きな挑戦と思える。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

## 【2】富山県高岡市議会

住 所	富山県高岡市広小路7-50
電 話	0766-20-1532
視察案件	高岡市アクティブシニア構想について
期 日	平成27年4月22日(木) 14時30分から15時40分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	高岡市議会 委員会室
概 要	<p>高岡市は、今春北陸新幹線の開通により東京から2時間20分で結ばれた人口17万人余りを有する富山県第二の都市である。歴史的文化遺産も多く、富山空港や、東西南北の高速交通網の結節点として「交流拠点都市」の確立を目指している。しかし現在の所、新幹線開通による首都圏からの観光客の流れは、新幹線で僅か15分の金沢市に集中し観光来客の恩恵をあまり受けていないと感じる。</p> <p>2012年の高齢化率は27.3%となっており、2025年には30.3%と推計されることから全地域の活力維持の為、団塊の世代をターゲットとしたシニア層に着目し、リタイヤ後の世代の経験やエネルギーを地域社会に再活用しようという「高岡市アクティブシニア構想」を打ち出</p>

しており、この世代が活躍できることが、今後のまちづくりのカギとなる、と考え取り組んでいる。

○施策のターゲットの設定として

- ・年齢が概ね50代半ば以上で、これまでの経験知識を活かし様々な活動に既にチャレンジしている人、或いはしようとしている意欲のある人。
- ・世代別人口構成の最大層であるシニア世代の消費力や活動力。
- ・県外の都市部等での勤務を終え、地元に戻って来たい、Iターンニーズとしている。

○アクティブになるための課題としては

- ・高岡で実際に取り組まれている活動や、各種イベント、更には活動団体が知られていない事。
- ・地域コミュニティが強いため、活動に入っていけない。
- ・介護等により家庭内での負担などが大きく、活動できないなどとなっている。

○課題に対する施策の方向として

- ・リーダー、コーディネーターなど自分の持ち味を活かしながら新たな活動にチャレンジする人を増やす「人づくり」として
- ・豊富な経験知識を福祉等の地域活動に活かすためのボランティア等の養成。
- ・定年前の段階から「第二の人生」に向けて意欲的に活動に取り組める環境整備。
- ・芸術、文化、歴史等幅広い分野で意欲的に学習できる環境の整備と支援。
- ・学ぶ立場から、教える立場へのステップアップや、得たことを次のステップに活かせるような事例が生まれる事を期待。
- ・様々な活動に取り組む際の相談対応等、いつでもサポートできる体制の整備などネットワーク・サポート体制等の構築。

○そうした世代の「活躍の場づくり」として

- ・ボランティア活動等の推進
- ・コミュニティビジネス等の創出として、ボランティア団体やNPO団体活動について、「非営利」という側面が誤解され「無償」にこだわる。

あまり活動そのものが長続きしないという指摘から、そこで従来の活動に加え、今後コミュニティビジネスを始めるための情報やノウハウを伝える実践講座開催事業などコミュニティビジネス創出に取り組む。

\*現在国内の自治体もこの世代の再活性化が地域の活性化につながる、とし検討着手し始めているし、我が笠岡市に於いても検討されているが、人的資源のパワーアップこそが、これからの時代のキーワードとなる事からもその必要性を再認識させられた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア層の技術、経験等の伝承として事例をメディア等で紹介するなど。</li> <li>・成果発表等活動のPR、イベントの実施等を考えている。</li> </ul> <p>○健康や文化などへの関心が高いシニア世代を対象として、活動的なライフスタイルを築きながら人生を謳歌できる「シニアで賑わうまちづくり」として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア層と若者の交流の場としての交流拠点等の創出</li> <li>・シニアビジネス創出等による消費活性化を検討している。</li> </ul> <p>*現在国内の自治体もこの世代の再活性化が地域の活性化につながるとし検討着手し始めているし、我が笠岡市においても検討されているが、人的資源のパワーアップこそが、これからの時代のキーワードとなる事からもその必要性を再認識させられた。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【3】石川県 21世紀美術館

住 所	石川県金沢市広坂1丁目2番1号
電 話	076-220-2800
視察案件	21世紀美術館について
期 日	平成27年4月23日(木) 9時50分 から11時10分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	21世紀美術館
概 要	<p>「まちに開かれた公園のような美術館」で2004年10月に開館し、来館者は国内のみならず、海外から訪れる人も多い。</p> <p>ガラスで囲まれた円形の建物には正面がなく、四方にある入り口のどこからでも入館できる開放的な構造。恒久展示作品などもある無料交流ゾーンとさまざまな企画展が開催される有料の展覧会ゾーンに分かれる。敷地内を自由に通り抜けることができるので、金沢市民は、それこそ公園のように利用している。建築については、歴史・伝統尊重のまちづくりにこだわるべきとの反対意見もあったが、伝統とは、単に過去の形式を踏襲するものではなく、「革新の営み」により、新たな価値を創造するものであるとの考えから、「新しい文化</p>

	<p>の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に開設された。</p> <p>まちや市民と一体となった市民とつくる参画交流型の美術館である。</p> <p>本市においても、スペース等限りはあるが、少しでも市民の交流の場となるような美術館にと強く感じた。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺